

横浜泉区に残る鎌倉御家人の足跡を辿る

2022. 12. 20 (火)

布施 克彦 記

長後、湘南台といえば我が町というイメージだが、そこから境川を渡っただけの横浜市泉区を疎遠な場所と感じるのは、筆者だけであろうか。藤沢を中心に、四方八方、密に巡らされた地名の会これまでの探訪先を俯瞰しても、境川の東岸地区はやや空白地帯と言える。

昨年注目を集めた NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」を視聴したことがきっかけで、鎌倉時代に関する本を何冊か読んだ。その中で、境川東岸・横浜市泉区に、二人の鎌倉幕府御家人の縁故地があることを知った。

一人が泉小次郎親衡、もう一人が飯田五郎家義（能）で、泉の足跡が泉区和泉町に、飯田の足跡が同区下飯田町にあることが分かった。泉は鎌倉幕府転覆の謀反を企て、それが和田合戦を誘発した。飯田は石橋山で敗走する源頼朝が落とした数珠を拾って届けた人物だ。それらの知識を得ることで、二人をテーマにした「さがみ探訪」のコースを考えることにした。

早速現地を歩いてみた。確かにそこには、二人の足跡が残っていた。しかし二人とも、歴史上ほぼ無名に近い人物で、探訪を実施する上でもう少し逸話が欲しかった。泉区役所に相談したところ、泉区歴史の会という団体を教えてもらった。そして同会のメンバーと会い、様々な知識を得ることが出来た。

探訪実施日の 2022 年 12 月 20 日は、快晴に恵まれ風もなく、絶好の散策日よりだった。相鉄線のいずみ中央駅を 9 時半過ぎに出発し、前半は和泉町を貫く和泉川に沿って南下しながら、泉小次郎親衡に纏わる史跡を巡った。その後下飯田町に入り、飯田五郎家義ゆかりの地を訪ねた。

今回散策した界限は、相鉄線と横浜市営地下鉄の開通によって急速に開発されたところだが、いまだに昔ながらの農村的風景が随所に残っている。和泉町から尾根を越えて下飯田町に入ると、眼下に富士山をバックにした湘南台の街が間近に見え、この地が馴染みの場所から至近距離にあることを再認識した。横浜市営地下鉄の下飯田駅での解散は 13 時前後。 (参加者総数 29 名)